

## 平成25年度 春季 学生チャレンジ制度 認定企画一覧

No.	団体名等	人数	企画タイトル	企画目的概要	奨励金額
1	江藤俊昭ゼミナール 市民教育班	6	SNSから生まれる一票 ～新たな選挙制度を未来を担う若者に広める～	平成25年4月19日、インターネット選挙運動解禁に関わる公職選挙法の一部を改正する法律(議員立法)が参議院本会議で可決され成立した。この公職選挙法の改正により、7月の参議院選挙からいわゆる、ネット選挙が開始され、日本の選挙に大きな影響を与える動きであると感じる。ツイッターやフェイスブックなどのSNS(交流サイト)を選挙運動に活用できるおかげで、身近に候補者の行動や活動内容を知ることができ、動画中継サイトでは選挙演説も視聴できる。このような政策は、今の日本の現状には必要であり、若者の投票率アップに大きく活かすことができる。若者が自分自身で考え、これからの国のあり方を担う人材を選ぶという一票の重みの価値を認識し、選挙の重要性を理解することが望まれる。そこで私たちは、まず、選挙管理委員会に対して、ネット選挙についてのヒアリング調査を行うとともに、選挙管理委員会と協力しながらフリーペーパーを作成する。そして、多くの若者たちにネット選挙の仕組みを理解してもらい、選挙をより身近なものにするためのPR活動を街頭で行う。また、選挙権年齢に近く、未来の日本を担う地域の高校生に対して、選挙制度の仕組みや歴史から選挙の大切さを伝えるための出前授業を実施する。さらに、座学だけではなく、実際に模擬投票を体験してもらうことで投票の方法や仕組みなどを学び、選挙に対して親しみや関心を持ってもらい、投票における一票の大切さを伝えるシディズンシップ教育活動を実践していきたい。	¥161,000
2	今井 久ゼミナール	18	山梨食のマッチング フェア2013	私たちは、平成25年7月23日(火)に京王プラザホテルで開催される株式会社山梨中央銀行主催の「やまなし食のマッチングフェア2013」に参加する。このイベントは、食に関する事業者と仕入企業を結び展示・商談会を主とし、山梨の食を全国に知ってもらい、山梨の経済の活性化につなげることを目的としている。主な来場者は、スーパーマーケット、百貨店、食品製造・卸売業、ホテル・旅館、飲食店などの仕入担当者であり、約700名の来場が見込まれている。山梨の商品を東京から発信することにより、新たな販路開拓・拡大が期待できる。本学と包括的業務連携協定を結んでいる山梨中央銀行と連携し、私たち学生が主体となって行動することで、山梨の「食」を県外に広め、山梨県の活性化に貢献することが本企画の目的である。主な活動としては、6チームに分かれ、それぞれ山梨の食に関連する企業と連携し、会社訪問を通して直接商品に触れることで、製造工程やその商品に行き着くまでの経緯・歴史を知り、知識を高めて各企業をサポートしていく。そのために私たちは、実際に各企業の製品を試食し、その特徴や他社の製品との違いを探し、どのようにすればより多くのバイヤーの方々にアピールできるのかを模索していきたい。また、チラシやポップ、アンケートなど本学で学んだ知識を活用して、連携する企業の力になりたいと考えている。	¥117,280
3	日高優一郎 ゼミナール	12	勝沼の観光をデザイン ～地域連携を通じた 地域ブランドの構築～	今までのゼミナール活動として、2つのプロジェクトチームに分かれ、山梨県の観光を活性化するにはどのような課題があるのか、また、県外の方に山梨の魅力伝えるにはどのようにすれば良いのかの議論を進めている。そこから、2チームとも「勝沼」というフィールドに注目し、それぞれ違った視点で「勝沼」の観光活性化をテーマとして課題を明らかにし、解決策を導き出すため、既に、実際に勝沼の観光に携わっておられる方々へのヒアリングなどの現地調査や文献探求といった探索的リサーチを行い、チーム毎にディスカッションを進めている。そこから、「勝沼」の観光活性化について仮説を設定し、それを検証するために今回の観光デザインに対する取り組みを行うことに至った。実際に、私たちが勝沼の現場に赴いてフィールド・ワークを行い、設定した仮説を基に社会調査(アンケート)を実施する。そこで得られた結果とフィールド・ワークで収集した現場の声を照らし合わせながらプランを検討し、勝沼の観光活性化の一翼を担う方々(例えば、やまなし観光推進機構・新田商店・タビゼン・ルミエール等)に観光活性化策を提言する。また、このプランは、株式会社日本旅行において、地域観光活性化山梨担当のコンサルティングに携わっておられる実務家の方々と協働しながら検討する予定であり、12月中旬には東京の日本旅行本社において、この観光活性化策のプレゼンテーションを行う。この企画の実施は、これまで私たちがマーケティング・リサーチを通じて学んできた内容を「実践」という形で発揮できる場であり、自分たちで考えた調査仮説を基に、自分たちの力でそれらを検証していく。また、フィールド・ワークを行うことで、現地の方にしかわからないような課題や問題を発見することができ、マーケティング・リサーチの素材とすることも可能となる。	¥161,240
4	健康栄養学部 管理栄養学科3年生	45	災害時の避難施設での 食料確保と料理提供	災害時における栄養・食生活的確な支援は、県民(被災者)の生命確保及び健康を維持する上で重要な意味を持つと考えられる。避難施設では、必要な食料が十分に得られないという状況に加え、災害時の特異な環境下でのストレス等による食欲の低下も想定されることから、本学部では、地域の栄養ケアに関する保健・福祉関係者と連携して、災害時における県民の生命確保及び栄養管理に貢献しうる食生活支援マニュアルの作成に取り組む。本企画で得られた成果については、公開講座や本学部ホームページを通じて、学生自らが県民にわかりやすく、かつ即実行可能な具体的内容として発信することで、県民の生命確保はもとより、災害時における栄養管理及び食生活の構築に寄与することを目標とする。具体的には、山梨県と連携して市町村の備蓄食料について調査し、災害時における食料確保の実態を明らかにする。また、ここで得られた調査結果と被災地で実際に支援活動に従事した本学教員である管理栄養士の経験を統括・発展させ、災害時の有用な食料備蓄リストの作成と備蓄品を用いたレシピの開発に取り組む。レシピの開発については、災害時の限られた環境下での実施を念頭に、簡便で栄養バランスのとれた、かつ衛生面の配慮を両立したものを旨とする。さらに、考案したレシピは、実際に震災時を想定した環境下で試作改良を重ねた上で、本学教員とともに学生自らが公開講座等を通じて、実演・説明を行い、県民の啓蒙活動にも従事する。	¥240,000

No.	団体名等	人数	企画タイトル	企 画 目 的 概 要	奨 励 金 額
5	健康栄養学部2年生有志	13	運動部の高校生を対象とした食育活動	近年、偏った栄養摂取や朝食欠食など、食生活の乱れや肥満・瘦身傾向といった子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化している。また、食を通じて地域等を理解することや食文化の継承を図ること、自然の恵みや勤労の大切さを理解することも重要である。特に、身体が著しく発達する成長期の栄養不足は大きな問題である。その中で私たちが注目したのが、運動部に所属する高校生である。激しい運動を行うとエネルギーを消費するだけでなく、体たんぱく質が分解したり、カルシウムや鉄などの無機質、ビタミンB1やビタミンCなど様々な栄養素を消費する。消費した栄養素は、適切に補給しなければ、激しい練習に取り組んでも効果が得られなくなる。つまり、運動部に所属する生徒は、他の生徒よりも食に関する知識を必要とし、適切な食事を選択する力が求められる。運動時に栄養素を補給する手段として、スポーツドリンクがある。しかし、このスポーツドリンクも、適切なものを、適切な時に、適切な摂り方で、適切な量を摂らなければならず、そのことを理解している高校生は少ないと思われる。そこで、市販されているスポーツドリンクを調査し、その効果を学ぶとともに、高校生に適したスポーツドリンクを試作する。また、この企画で得た知識とこれまでに学んだ知識を合わせて、実際に高校に赴き、運動能力の向上を目指す生徒に伝えていきたい。さらに、スポーツドリンクとともに不足しがちな栄養素を摂取できる食事のメニューを考案し、情報提供をしていきたい。	¥150,000
6	青木慎悟ゼミナール スポーツ栄養チーム	4	高校生スポーツ選手を対象とした栄養サポートの実践！！	私たちは、平成25年1月から株式会社はくばくの管理栄養士と共同して、H高校ラグビー部の選手たちに対して、栄養面からサポートを行ってきた。具体的には、食物摂取頻度による栄養摂取量の調査や2ヶ月ごとのIn-bodyによる体組成測定を実施している。In-bodyとは、プロスポーツ選手も利用している、高性能な体組成測定器である。In-bodyを用いることで、普通の体重計だけでは分からない筋肉量や体脂肪量の細かい変化を正確に追うことができる。その結果、学年やポジションの違いによって栄養摂取量が大きく異なり、中には栄養不足が懸念される選手もいることがわかった。そこで本企画では、これまでの活動を踏まえて、エネルギーや不足しがちな栄養素を摂ることができる捕食の提供や栄養教室を実施し、選手の栄養状態の改善やパフォーマンスの向上に少しでも寄与したいと考えた。捕食の提供と栄養教室は、それぞれ2回ずつ行いたいと考えており、そのために栄養教育の媒体づくりや料理の試作を事前に行う。捕食とは、スポーツ選手が練習の前後に食べる間食のことで、エネルギー源である炭水化物を中心に、3食では補いきれないビタミンやミネラルも補給できるような内容にする。これらの取り組みで得られた知見は、山梨学院大学のスポーツ選手たちのサポートにも応用していきたい。さらに、私たちのゼミナール担当教員である青木慎悟講師が日本食育学会、日本栄養改善学会等の学会を通じて、積極的に情報発信を行っていく予定である。	¥85,000
7	保育科 伊藤美輝ゼミナール	14	山梨県立美術館「動物ものがたり」への企画参加	山梨県立美術館において、平成25年12月14日(土)から平成26年1月19日(日)までの29日間、美術館からのクリスマス・プレゼント&お年玉企画展「動物ものがたり」が開催される。山梨県立美術館では、平成19年度から毎年、親子向け展を開催してきたが、その際のアンケートでは、「子どもが飽きずに最後まで楽しめる展覧会を開催して欲しい」、「美術館で子どもと一緒に遊びたい」などのリクエストが寄せられている。そこで今年度は、より分かりやすく楽しい親子向け展を、子どもたちが大好きな動物をテーマに開催する。動物は、絵本や物語の主人公として重要な役割を担うこともあれば、作家が芸術作品を生み出す源泉になることもある。そのような動物たちを、名作絵本や二世、三世に渡って読み継がれているロングセラー絵本の原画によって紹介したり、所蔵品から動物が題材となっている作品を紹介する。今回、この第一部から第五部までの構成のうち、第五部の「動物と仲良し」のコーナーの企画を担当できる機会が得られることとなった。小さな子どもたちにとって、美術館は楽しく身近なところという思いを持ってもらうために、「触って楽しむ」のコーナーの企画として、段ボールを素材とした実物大の動物や動物の椅子・テーブル等の制作を考えている。また、「つくって楽しむ」のコーナーでは、工作ワークショップの企画立案及び運営を担当する。	¥100,000

【学生センター】

## 平成25年度 秋季 学生チャレンジ制度 認定企画一覧

No.	団体名等	人数	企画タイトル	企画目的	要 要	奨励金額
1	野村千佳子 ゼミナール	13	体験型能楽教室 ～学生企画による能装束の着付け体験と海外への情報発信～	本企画の代表者及び副代表者は、専門演習指導教員が古典芸能研究会の顧問を務めているという縁で、当サークルに所属して能の実技(仕舞と謡)を学んでいる。これをきっかけに、本学の学生達にもっと能に対する関心を持ってもらい、実際に能を体験・体感することを通して日本文化の良さを知ってもらうために、体験型の能楽教室を企画・運営していく。教室では、能の解説と舞台上での能面と能装束の着付け体験、仕舞の実演を行う。企画実施者は当日、能楽教室の前座として仕舞を発表し、教室内では能装束の着付けの手伝いや能面をつけて動く体験をレポートする。また、山梨県内在住の外国人の方々を招待し、通訳を交えながら能を観る機会を提供して日本の文化に関心を持ってもらう。さらに、この能楽教室のレポートを中国語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語、英語の多言語で、ホームページやブログなどを通じて情報発信していく。		¥300,200
2	身延町静川村夢の再生プロジェクト山梨学院チーム	14	身延町静川村夢の再生プロジェクト山梨学院チーム	本学の学生として地域社会に貢献し、町興しを成功させたいと考え、学生チャレンジ制度に応募させていただいた。現在身延町では、「身延町静川村夢の再生プロジェクト」と銘打ち、昨年廃校になった静川小学校を拠点として、地域活性化、町興しのために活動している。今年の夏休みに静川小学校を訪れる機会があり、廃校を通じての町興しという非常に良い経験ができた。その際、身延町の望月仁司町長との面談の機会を得て、「町興しのために若い人たちの力をぜひ借りたい」との激励の言葉もいただいた。これをきっかけに、この町の活動の一翼を担い、若い我々にしかできないアイデアや作業を通じて町興しをお手伝いしたい。また、我々の活動を通じて、本学と身延町との交流協定を本年12月を目処に結ぶ予定もあり、今後も様々な活動を通じて身延町との交流を深め、本学の学生として町興しを成功させたい。既に決定している行事として、10月6日の運動会、11月3日の秋の収穫祭、12月のクリスマス会、1月3日の餅つき大会、2月のまちおこしバザーがある。また、本学学生がお勧めする身延町案内マップを作成して配布する。		¥90,200
3	チーム防災	2	防災対策について	平成23年3月11日に東日本大震災が起こった。その後も、局地的な豪雨や台風による影響で多くの被害が出ている。自然の脅威は、時や場所を選ばず私たちに襲いかかってくる。災害が実際に自分に振りかかってきた時、「私たちは何ができるだろうか、私たちはその時適切な対応ができるだろうか。」と思い、この企画を考えた。本学の学生や一般の方を対象にアンケートを実施し、自然災害に関してどれだけの人たちがどれくらいの意識を持っているのかを調査する。また、過去に起こった自然災害に目を向けながら、自分たちが住んでいる自治体や近隣の県の自治体では災害に対してどのような対策を考えているのか、実際に複数の市役所を訪れ、担当者に防災についての話を伺う。また、ツイッターなどで呼びかけを行い、防災について関心のある人々を集めてディスカッション形式で話し合う。さらに、来年の2・3月に開催される岩手・宮城・福島3県を周る寄付型のボランティアツアー「きっかけバス47」に参加し、復興と防災について実体験を通じて学ぶ。そして、それらの体験を小冊子にまとめことで防災に対する意識を高めていきたい。		¥31,500
4	込山芳行ゼミナール	25	学生が手掛ける究極の駅弁作り	旅行先でその土地の食べ物を身近に体験できるのは、駅弁であり、旅情を味わうのに最も身近なものと言える。そこで、昨今のB級グルメを超える、地元ならではの駅弁を自分たちの手で作りたくと考え企画した。具体的には、オオタ総合食品からブランド甲州牛、山梨県内の農協から米や野菜などの地元食材を調達し、駅弁の老舗である株式会社丸政の調理場をお借りすると同時に、指導・助言をいただきながら、食材の調理、詰め込み、梱包を行う。また、食材だけではなく、容器やラベルについても、地元企業の製品や身延町の伝統品である西島和紙を使用する。地元の食材だけを使用した究極の駅弁を作り上げることで、山梨県産の食材のPRにも貢献できるものと考えた。本企画を通じて、本学の学生をはじめ、多くの若者たちに駅弁の素晴らしさに関心をもってもらうことが目標である。これを実現していく上で、素晴らしさを共有した若者が、親近者や友人に駅弁の存在と良さを拡散していくことも重要となる。そこで、学生や一般の方々が多く集まる場所(=樹徳祭)で販売することが効果的であると考えた。		¥195,965
5	考古学研究会	9	甲斐の古道プロジェクト ～甲斐の古道の歴史地理・考古学的調査～	考古学研究会では、昨年度の秋季学生チャレンジ制度を活用し、「街道」を軸にして文化や民俗を研究してきた。今回は、昨年度の研究活動の続きと位置づけ、「雁坂路(秩父往還)」及び「青梅街道」の沿線である山梨市、甲州市、丹波山村、小菅村を対象に、古道沿線の道標、道祖神、祠、石造物、橋、一里塚、建造物、町並み、遺跡、道路遺構、水路、神社、寺院等の調査や記録を行う。また、甲斐国絵図、村絵図(甲斐国志内藤家文書)等の地図の調査や資料収集を行う。さらに、古道沿線の地誌・紀行、写真、絵画、地名、民俗行事、伝承などの調査や資料収集も行い、「甲斐の古道プロジェクト」の一環として、行政機関や市民団体と連携しながら地域活性化とまちおこしに活用する。		¥180,000

No.	団体名等	人数	企画タイトル	企画目的概要	奨励金額
6	パンダクラブ	6	「パンダクラブ」の設立	富士山の世界文化遺産登録や2020年の東京オリンピック開催決定で、山梨県を訪れる外国人は年々増加することが予想される。したがって、外国人と交流する機会はこれまで以上に増えることとなる。そこで、本学の広い国際視野を持った多くの留学生と日本人学生との交流を図り、外国人観光客への「おもてなし」を相互理解の基に実践できるよう、まずは日本人学生と留学生の語学力を高めることを目的として、「パンダクラブ」を設立したい。具体的な取り組みとして、前期も実践してきたように、毎週木曜日の昼休みを利用してお弁当を食べながら、様々な言語で会話することを通じて交流を深めていく。今後は、さらに内容の充実を図り、交流会や中国の正月体験なども行う。また、山梨学院大学スピーチコンテストを開催したり、地域の新聞社などから取材に来てもらうことを通じて日本全国に発信していきたい。留学生同士で母国語を話すのではなく、母国語を活かして多くの日本人学生との交流により、日本の文化を理解することが望まれる。そして、互いの語学力を高めていく活動を通して、将来的な外国人観光客への充実した「おもてなし」へと繋がっていくと考える。	¥80,000
7	伊藤栄一郎 ゼミナール	4	YGU宝探しシステム	YGU宝探しシステムは、本学のキャンパス内をクイズ形式で探検することで、新入生や本学への入学を志望する高校生、本学に関心のある一般の方々には、学生目線からの本学の魅力ある風景や建物を知ってもらい、また、在学生には今まで気づかなかった本学のプラスアルファの情報や風景を知ってもらうことができる。私たちのゼミでは、過去の学生チャレンジ制度を利用して、「山梨学院大学案内システム」と「電子時間割システム」を開発し運用してきた。特に「案内システム」は、本学を知る過程で楽しさが少なく、在学生にあまり魅力がないことがわかった。そこで今回のシステムでは、クイズ形式を使い、宝探しに近い状態を作り、ゲーム感覚でキャンパス内を巡ることができることで、オープンキャンパス等のイベントに役立つと考えた。また、クイズの出題内容に、建物の情報はもちろん、キャンパス内の風景写真や魅力的なモニュメントを含めることで課題を解消したい。本システムは有用性を考え、ホームページとして公開し、アクセスするとクイズが表示される。出題するクイズの内容は、本学の風景や建物に関わる部分に限定し、文章とともに出題される風景や建物の写真を載せ、適合する場所を当てる方式とする。さらに、オープンキャンパス等のイベントで利用する場合は、キャンパスマップと本システムの説明書を配布し、マップとクイズの写真を見比べることでその場所を探してもらおう企画も考えている。	¥102,000
8	健康栄養学部 減塩研究会	14	減塩量が一番多い山梨県へ	平成22年度の国民健康・栄養調査において、食塩摂取量日本一が山梨県であると発表されたことは、管理栄養士を目指す我々にとって大変衝撃的な出来事であった。減塩を推進することは、循環器疾患の予防や胃がんの予防につながり、特に循環器疾患については、1日3gの減塩により脳卒中や心筋梗塞などの死亡が、年に2~3万人減少すると推計されている。そこで、食塩摂取量一番の山梨県が「減塩量が一番多い山梨県」へと生まれ変わるために、減塩への意識を盛り上げ美味しく減塩する方法を山梨県民に広める活動を推進したいと考える。既に取り組んでいる減塩活動をさらに推進させるために、国立循環器病センターが募集している『「ご当地かるしおレシピ」プロジェクト-健康づくりと地産地消の美味しいコラボ-』に応募し、この活動に弾みをつけたい。現在、取り組んでいるレシピは、4年生が地域の特産品である「あけの金時、大塚人参、甲州ワインピーフ、あけぼの大豆、甲斐路」を使った定食部門へ、2年生は減塩が難しい「ほうとう」（市販品より50%塩分カット）を単品部門へ、「鳥もつ煮」を惣菜部門へそれぞれ応募する。このプロジェクトに採用されると、5ヶ月間で25万部に達して話題となった「国産の美味しい！かるしおレシピ」の第2弾となる出版物に掲載されることになる。さらに、山梨県栄養士会や山梨県内27市町村の食生活改善推進員の団体、学校給食に携わる栄養教諭・栄養職員に教材としてレシピを配布し、減塩活動の推進に寄与したいと考える。	¥150,000

【学生センター】

平成26年度 春季 学生チャレンジ制度 認定企画一覧

学生センター

No.	団体名等	人数	企画タイトル	企画目的概要	奨励金額
1	考古学研究会	6	甲斐の古道～鎌倉街道古き文化を探る～	<p>考古学研究会では、平成24年度及び25年度に認定を受けた学生チャレンジ制度を活用し、青梅街道と秩父往還の街道に関する調査を行った。これらの調査を通じて、この2つの古道の役割がどれほど重要なものであったかを知ることができた。しかし、山梨県内には、この2つの古道以外にも注目すべき古道がいくつか存在する。中でも鎌倉街道は、甲斐と中央を結んだ中道、若彦路、鎌倉街道の3つの古道の中で、記録上最も古い時代に登場した古道であり、7世紀の律令制度の整備によって交通制度も制定されている。また、鎌倉時代には、甲斐の政治の中心地であった石和が鎌倉街道の起点であると考えられることから、古道調査を行っている考古学研究会が調べるべき重要な古道と判断した。そこで、今年度の学生チャレンジ制度に応募したものである。</p> <p>具体的には、山梨県教育委員会の報告書（「山梨県歴史の道調査報告書第六集 鎌倉街道（御坂路）」）などの文献をもとに、調査対象の古道について理解を含め、現地調査を行った上で内容をまとめる。また、7月までに秩父街道の調査を行い、8月以降に鎌倉街道の調査を計画している。さらに、夏季期間に雁坂峠の登山調査も計画している。調査内容は、鎌倉街道沿いにある石造物や文化財、遺跡、神社、寺院、文化などの実測、及び地域住民からの聞き取り等である。</p>	¥250,000
2	込山芳行ゼミナール	23	南部藩再発見	<p>盛岡藩は、ときに南部藩とも呼ばれ、南北朝時代の頃より、明治維新によって盛岡藩が廃藩となるまで、長くその地を収めてきた。その南部氏のルーツが、現在の山梨県南部町にあることを知っている人は少ないのではないだろうか。この企画では、南部氏が花巻城で接待を受けた際に食べたことが起源とされる、岩手県名物のわんこそばを多くの人たちに食べていただく。これらの活動を通じて、山梨県と岩手県の歴史を見つめ直すとともに、岩手県に親しみを感じていただき、山梨県と岩手県の新たな文化的交流のきっかけとなれば幸いである。</p> <p>伝統あるわんこそばを多くの方々を経験していただくために、大きな規模のイベントにおいて「わんこそば大会」を開催する予定である。現在の考えとしては、10月下旬に開催される樹徳祭の野外ステージを利用して行う予定である。内容としては、当日は本場花巻市のわんこそば専属の行司（佐藤忠明氏）をお招きし、多くの市民や学生たちに参加してもらう。現在、樹徳祭の中で本企画が実行できるかどうかは協議中である。仮に不可能な場合は、そば店などと連携して実施する案も検討している。また、南部藩発祥の地・先祖ともいわれている南部町と提携して、南部町公民館においても同様の「わんこそば大会」を開催する予定である。</p>	¥400,000
3	さかおり浪漫倶楽部	13	さかおり浪漫倶楽部・・・地域応援隊	<p>本学の所在地である酒折近辺には、「さかおり倶楽部」という団体があり、地域活性化を目的として精力的な活動を行っている。今回、「さかおり倶楽部」の方々と交流する機会を得た中で、現在、「さかおり倶楽部」では本学の一部のスポーツ系クラブや学生会との交流しかなく、それ以外の一般学生への浸透度が低いという現実を知った。</p> <p>元来、酒折は学生の街であり、この街を学生自身が盛り上げていくことが必要であると我々は考える。そのためにも、酒折駅を利用する学生や大学周辺で生活をしている学生を取り込み、地域の方々と連携によって更に大きな活動へと発展させ、地域活性の一翼を本学の学生として担うことが目的である。</p> <p>既に、「さかおり倶楽部」としては、「酒折ゴミゼロキャンペーン」や「酒折音楽祭」を中心とした活動を行っている。また、アルテア七夕まつりのサポートや酒折ワインフェスタ等の大学内外のイベントにも参加している。これらの活動に、多くの本学の学生が積極的に参加することによって、新たなシナジーが生まれ、地域活性化を促進することになる。</p> <p>今回我々の提案で、「酒折朝市（毎月1回開催予定）」を新規に企画した。学生の街としての発展は当然のことながら、休日にも地域の人たちが集まるような街になるように大きなイベントに成長させていきたいと考えている。また、これらの活動だけでなく、我々学生による柔軟な提案で新しいイベントを企画し、周知を図ることによって、今後も酒折の街が学生の街として更に発展していくことを確信している。</p>	¥165,094
4	江藤俊昭ゼミナール 市民教育班	11	高校生がデザインする政治～18歳選挙権が切り拓く将来～	<p>近年、若者の選挙離れが社会問題となっている。選挙の投票率は現在低下傾向にあり、特に20代の投票率は、全年齢と比べて低く問題視されている。その原因として、一票の価値の重さを理解しておらず、他人任せになってしまっているという現状がある。国や地方の政治の主導権を選出するのが選挙であり、自分たちの生活に直接関わってくるという認識を持つことが若者には重要である。</p> <p>そのような中、2014年5月9日に衆議院本会議において、憲法改正手続きを定めた国民投票の改正案が採決された。この改正案により、投票年齢が「20歳以上」から「18歳以上」に引き上げられ、改正法施行4年後に現実のものとなる。投票年齢が18歳以上になるにあたって、高校3年生が選挙権を得ることになるため、高校生へのシティズンシップ教育（市民教育）を行いたいと考える。目的として、政治参加における政党の理解、マニフェストの理解、政治的判断力の向上に繋がるシティズンシップ教育（市民教育）を行いたい。また、市民教育を通して、高校生の政治的関心の向上、これからの投票率の向上を目指し、持続的な若者の政治参加に繋がればと思う。以上のことから、「高校生がデザインする政治」～18歳選挙権が切り拓く将来～をテーマとして高校生に対して出前授業を行い、併せて模擬投票も体験してもらう。また、山梨県選挙管理委員会へのヒアリング調査、他大学とのシティズンシップ教育合同調査や交流会なども実施していく。</p>	¥160,000
5	数住伸一ゼミナール	12	「ふらっと案内」が富士五湖を救う～“外国人観光客にやさしい”情報発信～	<p>最近の富士五湖地域では、富士山世界遺産登録の関係で今まで以上に外国人観光客の数が増えてきていることが分かっているが、予想以上の伸び率に地元インフラや情報整備が追いついていないようである。グローバル化が進む昨今、観光業の国際化はこれからの富士五湖にとって欠かせない事案である。しかし、彼らに対するのサイクル貸出、近くの観光スポットや施設紹介、そこに至るまでの交通手段などがどこに書いてあるのかは、今現在、言語的にも検索の仕方からも、大変分かりづらく、再び訪れたいと思わせる上で大きな障害となっている。今回の企画では、外国人観光客に対して分かりやすい情報、環境を整備するというアプローチから、結果として、私たちの地元である富士五湖地域全体の連携と活性化を図っていくことを主たる目的とする。以下の2つは、その改善に向けて主な活動である。</p> <p>①『ふらっと案内』・・・このアプリを主な軸として利用していく。これは、スマートフォンにも対応した無料携帯アプリで、今自分がいる位置から近い順に、食事処や宿泊施設、観光スポットをひとつひとつ表示して並べてくれるものである。今回の企画案では、このアプリを主な軸として使い、バラバラに展開している富士五湖の情報を実際に訪れ調査しながら1つにまとめるとともに、その過程を通して地元企業や自治体との強固な連携を図っていく。また、本学の学生が取り組んでいることをアプリの中でアピールすることによって、本学の活動をより多くの人に知ってもらおうと企画している。周知の方法としては、アプリの紹介が書かれたQRコード付きポップを、外国人観光客が集まる施設などに置かせてもらい、アプリの使用を勧めよう。</p> <p>②『多言語への対応』・・・ふらっと案内の中で表示される言語を私たち自身で訳し、日本語以外にも3ヶ国語（英語、中国語、韓国語）を新しく導入する。</p>	¥57,050

6	立石貴子 ゼミナール	13	「平成の富嶽三十六景」を絵葉書にして、県内観光施設で販売する	<p>学部横断型副専攻が始まって2年目に入り、1期生となる私たち3年生として、他の3本のプログラムとのコラボレーションができないかを考えた。アートマネジメントプログラムにおいて、多摩美術大学の方たちで作成された『平成の富嶽三十六景』を、観光ホスピタリティプログラムの立石ゼミで、絵葉書という商品にし、山梨県内の観光施設での販売を行う企画を立案することにした。その背景には、キャンパスセンターにただ飾っておくだけの「アート」ではもったいない！と感じたところから始まった。すなわち、アートをアートとしてのみではなく、身近に感じてもらえる商品にすることで、多くの方たちに興味をもってもらう。また、アートとしての『平成の富嶽三十六景』を周知することができる。一般的に認識されている本学のイメージとこのアートのギャップを楽しんでもらう。また、動き出して2年の学部横断型副専攻を同時に周知することができるのではないかと考えた。</p> <p>また、この企画で、ただ単に商品を作成し、店舗に任せるのではなく、商品企画、販売戦略などまで一連の物と人と金の流れもこの企画で体得したいと考えている。さらに、自分たちでパッケージを考え、販路を開拓し、店頭でのPOP作成や販売の手伝いをゼミ生で行う計画であるため、県内観光施設との直接的な交流が図れると考える。これは、観光ホスピタリティプログラムとしてただ単に観光施設を訪れ、観光客としての目線に立つだけではなく、提供側の現状を感じることもできるのではないだろうか。現代ビジネス学部・経営情報学部の学生として、大学で学んできた知識を基に、商品をどのような視点で売っていくのか、売っていけば売れるのか、または、売れずに残るのか、また、観光客がどのような視点で商品を選んでいるのか、選ばないのかを同時に学べると思い、この企画を応募することにした。</p>	¥150,000
7	Jump	5	いずみそばPRプロジェクト	<p>山梨県中小企業団体中央会が企画する学生会社診断では、「企業及び業界団体の問題点及びその解決方法について、学生が検討・提案することにより、県内企業等の実態や問題について理解させることを目的とする。」以上の内容のもとで学生と中小企業のコーディネートが図られる。今回私たちが担当させていただく中小企業は、「一般社団法人いずみそば組合」である。私たちは、学生会社診断に参加したうえで、学生独自の視点を活かしたいいずみそばのPRを行いたいと考える。学生は、実際に企業が抱える問題点の解決を図る協力をし、企業には学生が学ぶ場を提供していただくことでお互いに成長することを目指す。</p> <p>現在、「一般社団法人いずみそば組合」が抱える問題の1つに以下の点が挙がる。&lt;北杜市が、北杜市大泉地域で生産した「そば」の宣伝等を行って欲しいため、「そば処いずみ」の運営を委託しているがその役割を果たしきれていない。&gt; 私たちは、この問題点に着目して「いずみそば」の宣伝を行いたいと考える。具体的な方法は2点ある。1つは、インターネットを利用した情報発信により、山梨県外からの観光客や若者世代の集客率を向上させる。2つ目は、「いずみそば」を利用したそば製品の開発と販売によって、「そば処いずみ」へ来店する動機づけを行う。そのために、「そば処いずみ」におけるインターンシップを実施して、企業が抱えるより具体的な問題点と改善点や「そば処いずみ」とその周辺環境が持つセールスポイントを調査する。また、週に1回程度の現地訪問を行うことにより、「いずみそば組合」が抱えるより根本的な問題に迫り、従業員の思いを引き出したうえでの製品開発と情報発信を行いたいと考える。</p>	¥125,000
8	健康栄養学部 管理栄養学科 3年生	49	目指せトップアスリートへの食事	<p>健康寿命を全うするためには、栄養に加えて運動や休養が欠かせないことをこれまで学習してきた。その中で、スポーツと栄養について興味を持ち、昨年の学生チャレンジ制度において、運動部の高校生を対象とした栄養教室を開催した。トップアスリートを目指す選手の成績向上には、日頃のトレーニングと共に、栄養面でのサポートが重要であることを学んだ。</p> <p>しかし、栄養面でどのようなサポートが求められるかは、それぞれの競技において異なる。そのため、国内外で活動するトップアスリートの中には、競技生活のサポートチームに管理栄養士を加えている選手もあり、メディアで取り上げられていることもある。</p> <p>私たち健康栄養学部3年生は、スポーツ選手が多く所属する本学の資源を活かし、スポーツ栄養の実践を知りたいと考えた。その中で、本学の中でも全国的に有名な陸上競技部の選手の食生活について学習する機会を得た。そこで、2年間で学んだ知識を基に、陸上競技部の選手における食生活の状況・栄養状態を把握し、トップアスリートを目指す選手の食物・栄養の知識を理解し、故障予防に繋がる食生活・献立を考えることを目的に活動を行うことになった。また、これまでに学んだ知識及び今回の活動を通して得られた知識を、選手たちに講座や資料媒体で還元する機会を設けていく。このように、陸上競技部の選手に即した食事・栄養を知るための栄養調査をはじめとした調査・研究を行うため、学生チャレンジ制度に応募することにした。</p>	¥380,000
9	青木慎悟ゼミナール	4	SNSを用いたソフト食の情報発信とコミュニケーション作り	<p>私たちは、2013年12月からソフト食の研究を始めてきた。ソフト食とは、ミキサー食の前の段階の食形態で、やわらかいけれど、しっかり食べ物の形がある、見た目もきちんとおいしそうである食事のことである。ソフト食には、多くの利点があるが、一般の方まで情報が行き届いていないのが現状である。</p> <p>具体的な取り組みとしては、本などを参考にしながら、肉じゃが・ハンバーグ・豚汁・タラのテリーヌなどをソフト食にした。増粘剤は、スベラカーゼ、ソフティア2GEL、ソフティアUを使用した。しかし、どれも80℃以上の再加熱をしないと固まらないため時間がかかったり、微妙な水加減でミキサーが回らず、固形物が残りやすい。または、増粘剤量が少なかったり、加熱が不十分だったりして固まらないなどの問題点が多かった。そこで、増粘剤(まとめるこeasy)に変えて、抹茶プリン・刺身・和風ハンバーグを作ってみたところ、この増粘剤は、再加熱をしなくても食材と混ぜるだけで固まるため、時間短縮ができ、生の食材でもそのまま固めることができる等の利点があることが分かった。以上の研究より、増粘剤(まとめるこeasy)で簡単にソフト食が作れることが分かった。</p> <p>そこで本企画では、これまでの活動を踏まえて、自分で簡単にできるソフト食を多くの人に知ってもらうために、SNS(Facebookやtwitter)で情報発信し、施設や病院でも手軽に使用できるようにしていくことが目的である。今後は、これまで行ってきたソフト食の調理を継続的にを行い、普通食、介護食、嚥下食、ソフト食、きざみ食、ミキサー食の段階を追って調理し、10月からSNSに更新していく。また、ブログの更新状況は随時、SNS(Facebookやtwitter)で報告し、いいね!やリツイートを通じて、多くの人々の目に留まるようにする。さらに、地域に沿った郷土食や行事食も取り入れようと考えている。</p>	¥175,000
10	伊藤美輝ゼミナール2年生	14	子どもたちの造形環境の提案～児童館における造形ワークショップの実践～	<p>子どもたちが造形に取り組める機会は、造形に関する授業時数の減少及び子育て家庭の状況や環境から見ても、決して豊かとはいえない。山梨県立美術館における「つくろうあそぼう造形広場」への参加者は、毎回100名を超え、山梨県内から来場する。「毎回参加したいが、遠いので、もう少し近くでこのような場所があれば」という声を聞くことがある。</p> <p>そこで伊藤ゼミにおいて、各地域にある児童館において、造形のワークショップを行うための造形環境の要素を調査するとともに、ワークショップモデルを作るため、実際にワークショップを実施して具体的な提案を行いたい。なお、このワークショップは、笛吹市御坂児童センターで実施する。</p> <p>具体的には、準備段階として、造形活動に含まれるエレメントの調査、造形活動に含まれる育ちについての考察、造形活動テーマの決定と道具及び素材の準備などを行う。その後、ワークショップ会場となる笛吹市御坂児童センターとの打合せを経て、10月下旬及び11月上旬の平日の放課後の時間帯に、計4回のワークショップを実施する。さらに、活動の評価・考察を行い、報告書を作成し、来年2月18日開催予定の保育科卒業レポート発表会において成果を発表する。</p>	¥80,000

平成26年度 秋季 学生チャレンジ制度 認定企画一覧

No.	団体名等	人数	企画タイトル	企画目的・概要	奨励金額
1	今井久ゼミナール	10	学生と社会人の第0次面接 ～シフク（私服・至福）の交流～	<p>私たち3年生は、来春から就職活動が本格的に始まる。就職氷河期よりは改善されているが、学生にとって厳しい状況はまだ続いている。こうした中、私たちの不安は、“就職活動”だけに留まるものではなく、“就職した後の活動”にも不安を感じている。どのように学生から社会人に脱皮していったらよいか、社会人としての立ち振る舞いはどうあるべきか、社会人はどのような人材と一緒に働きたいと思っているのか…。これらについてのリアルな情報は、大学で得るだけでは不十分であり、ましてや、企業説明会などでは聞きづらいのが学生の本音である。一方、企業側すなわち社会人の方々にも同じようなニーズがあることを知った。今の学生はどのようなことを考えているのか、仕事をどのように据えているのか、企業を知る方法や選ぶ基準は何なのか…。等身大の大学生の姿は、アンケート調査から知ること、説明会や面接に臨む学生から聴くことも難しいと思われる。そこで、私たち学生の企画による、学生にとってより参加しやすい交流の場を設けることができるのではないかと考えた。</p> <p>具体的には、「商工中金ユース会(商工中金甲府支店と取引のある県内中小企業の会で、経営者の年齢が比較的若い39社で構成)」の協力を得ながら、「未来の森駅伝大会」や「甲府中心街異世代交流カラオケ大会」といった学生・社会人の両者が参加しやすく、普段着の交流が可能な場を設ける。就職活動が始まる前に、社会人の方々や普段着の交流をすることで、社会人とのコミュニケーション能力を養うとともに、仕事に対する理解を深め、就職活動を人生の中で意義ある取り組みにしたい。また、就職後も活かせるような社会人目線での貴重なアドバイスも得たい。さらに、社会人側も、学生との交流の中で、学生にそれぞれの企業や仕事に興味を持ってもらうことを目的とする。</p>	¥90,000
2	日高優一郎ゼミナール	12	大学生観光市場の隠れた可能性 ～大学生視点による観光市場の構築に向けた提言～	<p>近年、観光庁のデータによると、大学生は旅行をあまりしないというデータが出ている。しかし、私たち大学生は旅行をしている。なぜ、世間では大学生が旅行をしないというイメージがついているのか。それは、旅行会社が考える大学生と実際の大学生の旅行に対する考え方に食い違いがあることが原因だと考えられる。スマートフォンの利用等により、これまでとは行動パターンが異なることされる現代の大学生の観光行動を調査・分析し、旅行会社が気づいていない行動パターンを大学生目線で発見することで、観光市場の隠された可能性を提言することにつながることを考える。</p> <p>そこで、私たちは2つのプロジェクトチームに分かれ、大学生の旅行に対する調査を行うことにした。プロジェクトチームごと、大学生市場の課題を明らかにするため、現地調査（フィールドワーク）、文献探索、インタビューやアンケートなどを行い、課題を明らかにする。そして最終的には、大学生市場の可能性を検討し、大学生の市場構築のための提案を株式会社日本旅行本社において行う。それらを踏まえ今回、マーケティング・リサーチ・プロジェクトを行うことに至った。そして、このマーケティング・リサーチ・プロジェクトを通じて、自分で考える力、自分で行動する力、チーム力を身につけることができる。また、座学では学べないことを学ぶことができ、私たち自身の能力向上となり、将来就職をした際にも分野を問わず必要な能力の向上につながることを考え、応募することにした。</p>	¥56,720
3	立石貴子ゼミナール	18	『平成の富嶽三十六景』を絵葉書にして、県内観光施設で販売する ～第二弾として、六景～	<p>学部横断型副専攻が始まって2年目に入り、1期生となる私たち3年生として、他の3本のプログラムとのコラボレーションができないかを考えた。アートマネジメントプログラムにおいて、多摩美術大学の方たちで作成された「平成の富嶽三十六景」を観光ホスピタリティプログラムの立石ゼミで、絵葉書という商品にし、山梨県内の観光施設での販売をする企画を立案することにした。</p> <p>今年度の春季学生チャレンジ制度において、上記の企画案が認定され、第一弾として36画のうち6枚の原画（1.小林 敬生/錦秋富士-西湖から... 2.渡辺 達正/暁の富士 3.小林 裕児/富士山! 4.渡辺 満/情景より(富士山)a) 5.西川 洋一郎/平成富嶽三十六景より-神奈川天空 雲海- 6.中山 隆右/夜間富士）を選び、商品化して販売に至った。現段階では、10月18日・19日で行われたふるさと特産品フェア及び甲府大好き祭りにおいて、41パック（6枚入り1パックとする）販売することができた。また、10月22日の18：15からの「UTYニュースの星」で放映されたり、UTY主催の山梨新報に掲載してもらう（予定）など、反応は好評である。</p> <p>前回、企画を実施した改善点として、固定で販売する先を決めること、県外の顧客に販売すること、SNSを利用して活動を認知してもらうこと等があったので、今後はこの反省点を生かしてさらによりよいものにしていきたい。今後も県内の様々なイベントに参加・販売をしたり、固定の販売先として県内の美術館や都内の山梨アンテナショップでの販売を予定している。また、この企画で、ただ単に商品を作成し、店舗に任せるのではなく、商品企画、販売戦略などまで一連の物と人と金の流れも体得したいと考えている。秋季チャレンジ制度では、残りの30枚の原画の中から6枚を新たに選び、絵葉書化したいと考えている。今回は、経験のある3年生に加え、今年度後期からゼミナールが始まった2年生にも経緯説明をし、販売に携わってもらうことにした。</p>	¥120,000
4	入江省熙ゼミナール	16	夢小路活性化計画～若い女性が歩きたくなるまちづくり～	<p>甲府駅北口に甲州夢小路という場所がある。しかし、景観が良いにも関わらず、あまり人で賑わっていない。私たちは、夢小路の活性化を目的とする。その過程で、若い女性が集まるまちは、老若男女多くの人々が集まるまちであるということになり、若い女性をターゲットに「女性が歩きたくなるまちづくり」をテーマにした。</p> <p>まずは、夢小路が甲府駅北口から少し離れていることと、夢小路自体が狭いということから、夢小路そのものが分かりづらいという問題点がある。それを解消するために、甲府駅北口から夢小路までの道を含めた新しい一つの組織を作り、一貫したまちづくりから始めていきたい。そのために、それぞれの地主や社長を集め、一つの組織として動くことでまちの活性化に繋がり、それぞれにどのようなメリットがあるかをプレゼンする。次に、歩きやすいように、道の整備や空いているテナントに店を開きたいと考えている人を募る。夢小路の落ち着いた雰囲気を活かしながら、歩いていて飽きのこない、歩きやすいまちを作っていく。その間に、さらにまちづくりを学ぶため、地域興しに成功したモデルケースのまちを見て回り、参考にしながら案を出し合い、より良いまちづくりを進めていく。</p> <p>それらが整ったところで宣伝をして、甲府駅北口から夢小路までの道『新・夢小路』を広めていきたいと考えている。宣伝方法としては、SNSの活用や自主制作のCMを作り、YouTubeにアップしていくなどの案を考えている。</p>	¥100,000

No.	団体名等	人数	企画タイトル	企画目的概要	奨励金額
5	S.A. 支援プログラム製作プロジェクト	2	4学科対応の新たなチューデント・アドバイザー支援プログラムの作製	<p>平成25年度のチューデント・アドバイザーによる履修相談から、アドバイザー支援プログラムが導入された。しかし、経営情報学科の新入生への単位数の計算方法や講義の取得方法を説明する機能しか実装されておらず、また、経営情報学科の新入生のみを対象としていたため、他学科の新入生には使用することができなかった。その後、アドバイザーからは、他学科の新入生にも支援プログラムを使用することができれば、新入生へ解りやすくアドバイスできるようになるという声が多数寄せられている。また、新入生からも、支援プログラムに表示された時間割や単位数といった内容を印刷したいという要望が多々あったが、導入された支援プログラムでは印刷機能が実装されていなかったため、印刷を行うことができなかった。支援プログラムへ印刷機能を追加することで、新入生自身が履修する講義を再確認することができ、その用紙に直接メモを書き込むことも可能となり、より大学生活に馴染みやすくなると考えた。</p> <p>本企画では、アドバイザー、新入生ともにより良く使えるよう、平成25年度に導入された支援プログラムを基に、4学科対応及び印刷機能対応のチューデント・アドバイザー支援プログラムを作製し、実際にチューデント・アドバイザーによる履修相談の際に運用することを目的とする。</p> <p>本制度の実施期間内では、チューデント・アドバイザー支援プログラムの作製しか行うことができないが、平成27年度のチューデント・アドバイザーによる履修相談において、新たな支援プログラムを実際に運用し、更なる改良を行っていく予定である。</p>	¥49,585
6	ポリフェノール調査会	7	疾病の予防改善と野菜・果物の消費拡大のためのレシピ大作戦！	<p>現在、日本では、生活習慣病や神経変性疾患の増加が問題となっている。生活習慣病とは、糖尿病や高脂血症など、生活習慣に起因する疾病の総称であり、神経変性疾患とは、神経の変性や脱落によって引き起こされる疾患の総称である。これら疾患には、細胞の「酸化」が深く関わっている。</p> <p>これまでに、授業外の時間を利用して、食品に含まれる機能性成分についての実験を行い、ポリフェノール類に抗酸化作用のあること、また、神経細胞に対する保護効果のあることを見出してきた。ブドウやナスなどの野菜や果物にはポリフェノール類が多く含まれており、これらを食べることによって抗酸化作用が発揮され、引いては、生活習慣病や神経変性疾患の予防や改善が期待できると考えられる。</p> <p>一方、最近では、若者を中心に多くの世代で野菜や果物離れが生じており、消費が大変伸び悩んでいる。ブドウやモモの生産量日本一を誇る山梨県においても消費の現状は思わしくない。</p> <p>以上の2つの課題を解決するべく、ポリフェノール類を多く含む食材を用いて、新規商品、新作料理のレシピを開発し、その食材の消費の促進、さらには山梨県の健康増進に貢献していきたいと考えている。試食会やアンケートを実施して、優れた評価を得た物を精査・改善し、更に、最終的な成果をインターネットなどを通じて広く発信していきたい。</p> <p>実施方法は、これまで研究してきたポリフェノール類の抽出液を用いた細胞実験での成果により、レチノイン酸などに神経保護、神経突起の伸長効果があることが分かった。このような補助効果のあるポリフェノールを多く含む食材をふんだんに使用したレシピ案を5品ほど作成し、見栄えなどを考慮し、3品に絞る。考案したレシピを1回の試作につき3品を2食分作り、自ら試食し、見栄え、味、食感、調理性などを評価する。これを6回ほど繰り返してレシピを練る。管理栄養学科の学生や教員に協力してもらい、調理実習室を借りて、試食を作り、試食をしてもらう。その際、アンケートを作成し、評価してもらう。評価をもとに改善し、さらに試食会を行う。4回の試食会で得た感想などで評価し、改善案を出す。なお、レシピやポリフェノールについての効果は、FacebookやYOUTUBEブログ、ポスター等を利用して発信する。</p>	¥109,000